

1. 小牧市の概要



1 沿革

小牧市は、明治22年の新町村制、同39年の町村統廃合、さらに昭和30年1月1日、町村合併促進法の適用を経て、県下21番目の市として誕生しました。明治期以前には、戦国期「小牧・長久手の合戦」の舞台として名高く、江戸期には「木曾街道」が開通し、かんがい用水の開削などによる用水・新田の整備・開拓も盛んに行われ、昭和に至るまでは、純農村地帯として経済と生活の基盤を確立しました。

市制が施行されて間もない昭和34年には伊勢湾台風が来襲し、その被害の復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤確立のための積極的な工場・大型団地の誘致が図られ、人口も大きく増加しました。その後、昭和40年代には、東名・名神高速道路、中央自動車道が開通、名古屋空港とあわせ、中部圏の陸・空両交通の要衝としての地の利と、高度経済成長政策の相乗効果により、田園都市から内陸工業都市へと大きな変化を遂げました。

また、中部圏の中核都市として昭和52年に県下10番目の10万人都市の仲間入りをし、令和7年時点では約15万人となっています。平成13年10月には名古屋市と東名・名神高速道路小牧インターチェンジとを結ぶ名古屋高速11号小牧線、さらに平成15年3月には地下鉄上飯田連絡線の開通により、名古屋都心へのアクセスが飛躍的に向上しました。令和7年に市制施行70周年を迎え、小牧市民憲章に掲げる理想のまちの実現に向け、新たな時代に対応したまちづくりに取り組んでいます。



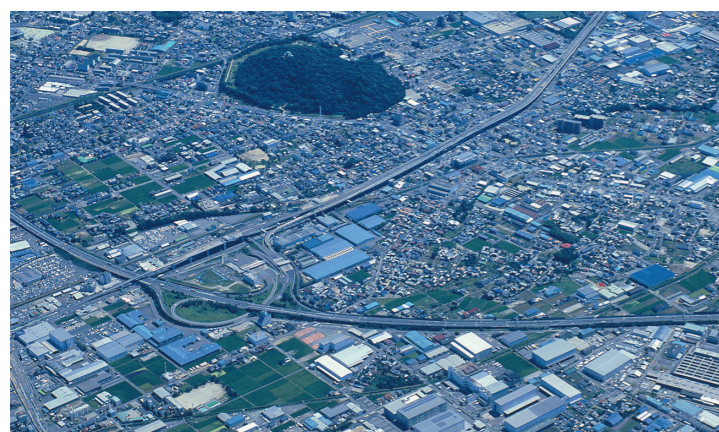
小牧・長久手の合戦



名古屋市北部から小牧市を望む

2 位置及び地勢

小牧市は、名古屋市の北方約15km、濃尾平野のほぼ中央に位置し(東経136度54分、北緯35度17分)、その地勢は、北東部に広がる丘陵地(標高50~200m)と、南西部の平坦地(標高10~30m)に大別されます。地質は西側が沖積低地、東側が洪積台地によって構成され、広さは東西最長14.82km、南北最長9.22km、周囲57.5km、面積62.81km²となっています。



小牧IC付近

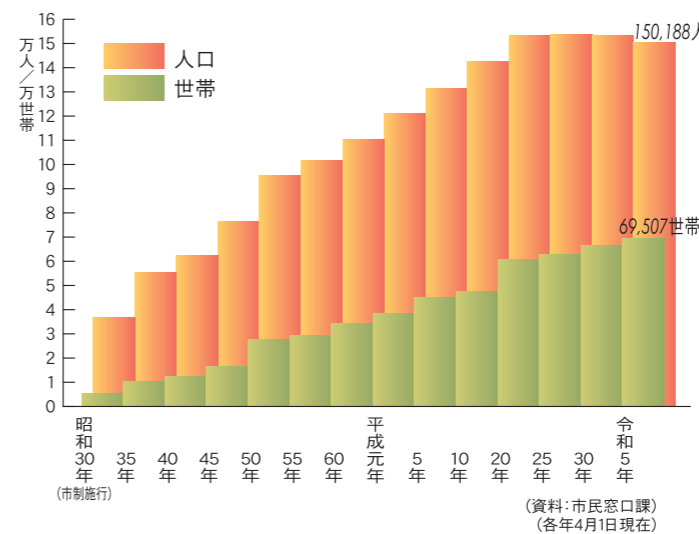


3 人口

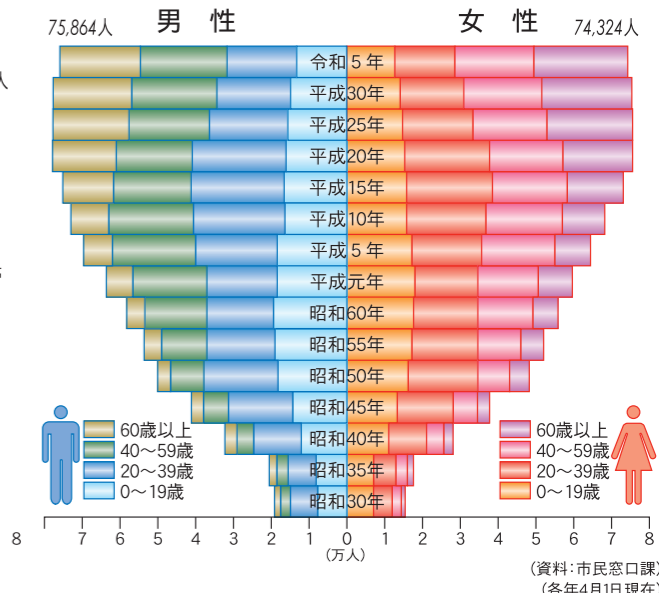
市制施行時(昭和30年)に32,327人であった人口が、市の積極的な工場・大型団地の誘致政策、国の高度経済成長政策による人口の都市集中化、東名・名神高速道路、中央自動車道の開通による交通要衝都市への脱皮などのさまざまな要因が重なり、昭和30年代後半から昭和40年代に急増し、昭和52年には10万人、平成16年には15万人を突破しました。

その後も緩やかに増加していましたが、平成27年の153,680人をピークに少子高齢化や転出者の増加等の影響により、減少傾向となっています。

■人口と世帯の推移



■男・女人口の推移



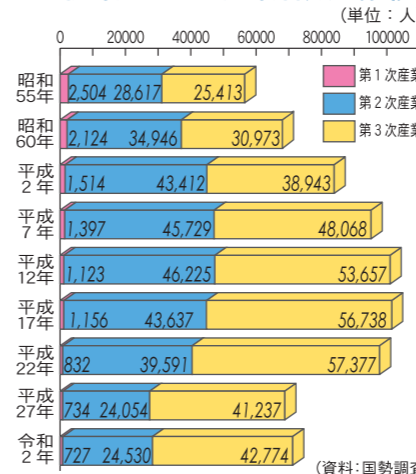
4 産業

小牧市の従業人口は、第3次産業が最も多く約60.8%を占めます。

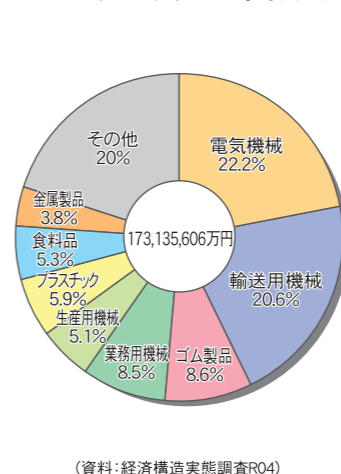
工業の産業別製造品出荷額(令和4年)では、電気機械が最も多く、以下輸送用機械、ゴム製品、業務用機械となっています。産業は、尾張北部地域における集積が高く、人口1人当り製造品出荷額は、愛知県平均を大きく上回っています。

商業については、人口1人当りの年間販売額は、卸売業が県平均(名古屋市を除く)を大きく上回り、小売業も県平均(名古屋市を除く)を上回っています。このように、小牧市は尾張北部地域の中で工業、商業に代表される産業面で重要な位置にあるといえます。

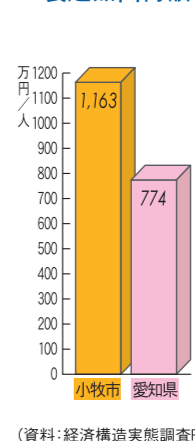
■従業地による就業者数の推移



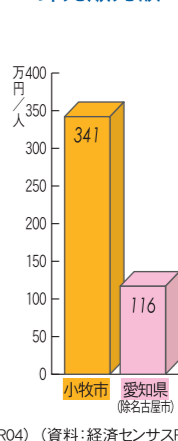
■産業別製造品出荷額



■人口1人当り製造品出荷額



■人口1人当り卸売販売額



■人口1人当り小売販売額

